

第 16 回高等学校改革プラン推進委員会（第一推進委員会）議事録

1 日時 平成 18 年 1 月 7 日（土）午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分

2 場所 長野県庁西庁舎 1 階 111 号会議室

3 出席委員

中村 正行委員長	若麻績 享則委員
森野 貞雄副委員長	清水 保委員
青木 一委員	坂口 昌夫委員
中沢 一委員	小山 壽一委員
小山 元彦委員	宮本 精一委員
塚田 芳樹委員	丸山 稔委員
市川 浩一郎委員	

4 開会

（三澤教育支援主事）

皆さま、明けましておめでとうございます。

昨年は委員の皆さま、それぞれお忙しい中を推進委員会では精力的なご審議を大変ありがとうございました。本年も、引き続きよろしくお願い申し上げます。

それでは、委員長さん、よろしくお願いいたします。

（中村委員長）

本年も、審議をよろしくお願いいたします。

これから第 16 回高等学校改革プラン推進委員会を開催させていただきます。

議事に入る前に事務局から他の推進委員会の様子、それからご用意いただきました資料の説明、その質疑、と進めてまいりたいと思います。その後でまた皆さん方から、地域や団体の情報等いただけましたら、ご説明をお願いいたします。それから議事へ入っていきたいと思います。

今日は旧第 4 通学区の魅力づくり、昨年末の 15 回の議事の続きのご議論をお願いしたいと思います。多部制・単位制の配置につきましては、だいぶ時間をかけて検討してきました。そろそろ推進委員会としての方向付けを出したいと思います。

それでは、資料説明をお願いいたします。

5 資料説明

（三澤教育支援主事）

はい。それではよろしくお願いいたします。

まず、他の推進委員会での様子でございますが、第二推進委員会の第 15 回、これが 12 月 28 日に行われております。前半 2 時間半ほど非公開での審議ということで、後半の 30 分を公開して、非公開での審議内容について説明を伺っております。

第 2 通学区の再編につきましては、生徒数が減少している状況等から望月高校、蓼科高校を統合して、よりよい学校をつくっていくということで合意されております。それと多

部制・単位制高校の配置についても、校名を挙げての議論がございましたが、転換する高校についての結論には至ってはおりません。引き続き、議論を深めていくということであります。

第三推進委員会、南信地区でございますが、13回の委員会が12月26日に行われております。7区の高校改革について、旧第7通学区の高校改革についての意見発表の場が設けられまして、4団体から発表をいただいております。諏訪地区に統合する必要がないですとか、統合案の白紙撤回等の声もございました。

それに対しまして推進委員会の委員の皆さんから、質問あるいは意見等が出ております。箕輪工業高校の多部制・単位制へ転換すること、それと同校定時制、それと上伊那農業高校の定時制は設置される多部制・単位制高校に統合するということを再確認しております。また飯田長姫高校、飯田工業高校の統合も再確認しております。

7区につきましては、岡谷東、岡谷南の統合だけでなく、総合学科を含め、前向きに魅力ある学校づくりを考えるべきという意見が出されております。

第四推進委員会、中信地区でございますが、第15回の委員会が12月の25日に行われております。第11区の個別論議を行っております。松本筑摩高校の全日制を廃止して、新たに多部制・単位制の独立校として配置することが再確認されております。それと大町地区および大系線の専門高校3校ございますが、ここの再編についても審議をされておりますが、3校とも現状維持ということで合意されております。

他の推進委員会の様子につきましては以上でございます。

以下高校教育課三澤教育支援主事から資料説明 【説明内容省略】

6 議事

(中村委員長)

それでは、ただいま説明いただきました資料の内容について、あるいは他の推進委員会の審議内容についてのご質問等ありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、また議事の中でありましたら、質問していただこうと思います。それでは、議事に入らせていただきます。

本日は前回15回に引き続いて、4区の魅力づくり、それと特に多部制・単位制の配置についてご検討を続けていただきたいと思います。これは推進委員会の前半の部分でもかなり時間をかけてお話をいただきましたし、ここ何回かにわたって、多部制・単位制の配置についてご議論いただきましたので、きょうはある程度の方向性を出していきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

多部制・単位制は必要性が高いという皆さん方のご認識はよろしいかと思いますが、現状の定時制の整備拡充で対応すべきというご意見もありましたが、必要性が高く、どこかに配置していくという点はよろしいかと思いますが、ただ交通の便がよいところということで、長野市の中心部でしょうか。中心部に配置というご意見もあります。

なかなか、独立校舎として転換していくのは大変ではないかということもありますので、現在、候補案として挙がっている坂城高校、それから委員の方から案として出てきました屋代南高校ということで、ご検討をいただいているところです。

今日は続きの議論ですので、何か特にございましたらご発言いただいで進めてまいりた

いと思いますが、先ほど出していただいた資料についてはどうでしょうか。高校への入学者の構成については、中学の状況がちょっと違うと。屋代南と坂城では、少し違うというご説明でしたが。

地域団体等の情報等を、ちょっと抜いてしまいましたが、きょうはよろしいですね。特にございますか。

どうでしょう。最終的にはお一人お一人、最終的なお話を聞いてまとめようかなとも考えています。ただし順不同で、1人ずつご発言いただきたいと思いますが。

（丸山委員）

2 通学区の多部制・単位制の議論について、もう少し詳しくお聞きしたいのですが、新聞等の報道も一部あり、先ほどの説明では多部制・単位制については結論はまだだということですが、1月になってるわけですね。

望月高校が、対案というような形で出したわけですが、そのことも含めてどんな討論があるのかと。あるいはこの前も私も言っていますが、2 通学区の多部制・単位制がどこに設置されるかということによって、かなり1 通学区の問題というのはかかわりを持つてくると思うんですね。

前に委員長さんは、それぞれに考えればいいとおっしゃったんですが、それはそれでそれぞれに考えて県教委で調整すればいいという話かもしれませんが、ちょっと2 通のもう少し突っ込んだ討議の内容というのはお話しできるのでしょうか。

（中村委員長）

私は最初は2 通の委員長さんと話し合うようにと言われていたのですが、どうも議論を聞いていますと、2 通学区も配置の議論が、いろいろなところを検討されていて、なかなか決まらないという状況でしたので、むしろ第1 通学区で決断をすれば、2 通のほうもそれに応じて調整ができるのかなという思いでいます。

前回傍聴しまして、そういう思いを強くしましたので、こちらでいろんな条件を判断して配置を決定すればよろしいのではないかと考えている次第ですが、事務局で第2 通学区の議論の、もう少し詳しい内容を教えていただければと思いますのでお願いします。

（柳澤教育主幹）

はい。先ほど担当のほうからご説明申し上げましたとおりでございますが、今お話がありました望月高校からの対案ということで、望月高校の関係者のほうから多部制・単位制へというようなお話がございましたが、そういうことも含めましてかなり慎重な議論を進めていただきまして、先ほど報告させていただきましたように、やはり利便性の問題から望月の多部制というのは難があるということで、望月と蓼科を統合して新たな魅力ある学校をつくっていきましょうと、そういうことで合意をされたところでございます。

多部制・単位制につきましては、候補案で示されております野沢南高校を転換するということをめぐる議論をしていただいておりますが、そういう中では例えば野沢北と野沢南高校を統合してパワーアップした学校をつくって、どちらか空いたところに新しく多部制を立ち上げたらどうかとか、そういった意見も出ておりますが、いずれにしても第

2 通学区の多部制・単位制の配置につきましては、さらに今後議論を進めていくということになっているところでございます。

（中村委員長）

（第二通学区でも）多分こちらの第1通学区の議論の様子もお考えになっていらっしゃると思いますが、丸山委員、この点でいかがでしょうか。

（丸山委員）

これはちょっと難しい問題といえば、難しい問題ですが、どちらが先に決めるかというか、そういう問題でいいのかなということがあるんですね。私は前から言っている意見を持っているわけですが、それにしても2通学区の決まる方向がまったく見えていないわけで、そうすると何と言いますか多部制・単位制というもののメリットがあるとしたら、必要性があるとしたら、その中身というのはかなり広範囲から通えるというか、そういうことは皆さんの意見の中でもいくつかでていると思いますね。

それから、夜間定時制に必ずしも代わるものではない。完全に代わるものではないと私は思っています。

そういうふうになると、やっぱり2通、1通のところでも、だいたいどこからでも通えるようなところが、案としては設置するということにしたいと思うので、1通学区も2通学区も、ここについてはあまり決まらないといいますが、この前委員長さんからまとめの方向の話がありましたが、どこに決めるというようなことが難しいのではないかなと私は思っているんですね。

そういう点では、2通の動きというのが大きいので、その辺ちょっと私もわかりませんが、どういうふうに考えたらいいのか。必ずしもこっちが、じゃあどこかへ決めたり、方針を決めたら、それに合わせて2通も決めるんだということになるのかどうか、そこはちょっと難しいのではないかな。

やっぱり調整をする必要はありますが、調整を今後するというのは無理かもしれません。だから、結論的にいえば問題点や課題等を指摘する程度のまとめで、双方出してということになるのではないかなというのが、一番現実的じゃないかなと思うんですが、その辺の議論をしてほしいと思います。

（中沢委員）

この推進委員会に課せられているのは、第1通学区というのがあって、そこにひとつの多部制・単位制をつくるというのが基本的な課題だなということでございますので、この長野地域の皆さんが、多部制・単位制をより利用できるという観点で絞っていかないと、ここで第2通学区のところまで思いをはせてしまうと、議論がまとまらないと思います。

要はわれわれは第1通学区という中で、「どうだ」ということに絞った論議が必要だと、このように思っています。

(中村委員長)

ほかはいかがでしょうか。

丸山委員のご心配になっておられる現状の定時制が、多部制・単位制に代わるものではないということですが、どの辺が一番ご心配ですか。

少人数に関しては、どうも視察した限り、あるいはいろいろ教えていただいた限りでは多部制・単位制は非常に大きなメリットがあって、先生と生徒が、一緒に勉強しているという雰囲気が出ているような感じは受けました。その辺は問題ないと思うのですが。

(丸山委員)

一番は、やってみなければわからないということはもちろんありますが、今までいろいろな視察をしてみたり、いろんなことを調べてみたりしてみて、私としては多部制・単位制に行きたい生徒と、夜間定時制に行く生徒というのは、違うんじゃないかと。どっちでもいいやということ、あまりならないんじゃないかと思います。

多部制・単位制がある、設置された場所に夜間定時制がなければ、当然夜間があるから、多部制・単位制へ行きますね。しかしちょっと遠いから、遠くても多部制・単位制に行くという子と、それから地元で夜間制があればそっちへ行くかという子では、違うと思うんですよ。

つまり、もう少し具体的に言えば、私は前から北信濃地区が屋代南や坂城ではちょっと遠すぎるので行きにくいということを言っているのですが、例えば北信濃地区で、中野と中野実業が統合されたとして、その定時制が残るとい、残すという県の案では出ているわけですね。

そうすると北信濃地区の生徒は、夜間の定時制でもいいやという子は夜間に行くと思うんですね。けども、その中でどのくらいの人数が割合かわかりませんが、多部制・単位制のほうがいいなという子は、多部制・単位制へ行くと思うんですよ。

つまり多部制・単位制があるから、定時制はいらないということにはならないし、そう考えると、だからこそ多部制・単位制は、できればさっき中沢さんがおっしゃったように確かに1通学区の中で、できるだけ通えるところに置くという可能性としてはありますが、そういう点では、定時制と多部制・単位制は違うという考え方を持たないといけないと。

私は前から言っているように、定時制を全部残せとは言っていないんですが、でもできるだけやっぱり残すべきであると。残しながら、多部制・単位制の良さも生かすべきだと言っているんです。そこは、そういう意味がひとつ。

それから小規模という問題はどうですかね。多部制・単位制は、少し規模が大きくなりませんか。私は太田フレックス高校に行きました。太田フレックスは1学年ですからね。あれが全部そろえば、もっと多くなりますよね。

やっぱり多部制・単位制というのは少し多めなんですよ。今の夜間定時制が持っている少数という意味からいってね。だからそういう点では、やっぱり夜間定時制に行く子と多部制・単位制。特に多部制・単位制の敷地へとつくるとしたら、昼間と午後ですよ。そこへ行く子とが、そういうところへ行きたいという子は、単位制で行きたいという子がどれだけいるかということだと思うので、そういう点でいくと、やっぱり多部制・単位制を設置するのは、そういうことを考えて、定時制との配置も含めて考えるということ。

そういうのがひとつです。

それからもうひとつ、ついでに言っておきますと、さっき確かに1通学区で考えることは、それは確かですが県の説明も坂城という説明は、坂城が何でいいかという説明はしなの鉄道沿線ということになっているわけで、上田と上田千曲の定時制を廃止するわけですよ。つまり坂城と考えた県の案は、1通だけ考えているわけじゃないんですよ。2通も含めておいて、坂城がいいと言っているわけですよ。

矛盾するわけです。だからこの委員会の中では、坂城では南すぎるという話が出たわけですよ。そういう点では、2通との関係はどうしても出てくるんですよ。もっとはっきり言いますと、2通の多部制・単位制がしなの鉄道沿線にきたらどうですか。坂城や屋代南でいいんですか。

野沢南という県の案だから、坂城、屋代南という話になってくるという関係が出てきていると思うんですよ。確かに今、両方の委員会が相談して決めるというのは、なかなか難しいから、ちょっとどのようにまとめたらいいかというのも、私自身もよくわからない点もあるけれど、やっぱりそういう点ではそういう問題点の指摘、課題というか、そういうことをまとめた上で、というまとめ方しかしょうがないんじゃないかなという思いがします。

(中村委員長)

南すぎるということですが、どこまで北に持っていけば全部通えるかということも考えられますね。長野市、旧市街地へ設置して、北信濃から通えるか。少しは楽になるかもしれませんが、長野、屋代南、坂城まで行くと遠いのもかもしれません、屋代南ぐらいですと、それほどバスを使うとか、そういう長野駅からの高校へのアクセスを考えると、鉄道を乗り継ぐほうが早いのではないかとことがありますよね。

空間的な距離と、時間的な距離というのが多少問題になってくると思います。第1通学区の全部の高校から通える多部制・単位制というのは、多分なかなか難しいんじゃないかと思うんですが、できるだけ通っていただける。しかも第2通学区からも少し受け入れられる、そういう配置が候補案として挙がっているということだと思います。

(若麻績委員)

私も当初から、この今回の高校改革の一番魅力のポイントとして、この多部制・単位制を設置するのは、占める幅が大きいと感じております。

そんな中で、前回の会の最後のところで委員長さんがおっしゃったこと、私も同感なのですが、19年度スタートというところで現在進んではおりますが、その進め方に若干の難しさを感じる状態のことは、多くの方は思っているのではないかと思います。

そしてこの多部制・単位制を設置するという段階で、やはりこれは新しい校舎等を当然設けていかなければならないというような議論も一部あるわけですが、今、県教委さんで実際多部制・単位制設置について、19年度スタートするという前提で考えた場合、現在の在校生への配慮と、それからその新しく設置された多部制・単位制の学校との調和というのでしょうか、そういうものはどのように財政的、それから考え方として持っておられるのか、ちょっとお聞かせいただけたらありがたいと思います。

(中村委員長)

事務局、お願いします。

(柳澤教育主幹)

新しい多部制・単位制の設置につきましては、基本的には現在ある既設高校の転換ということでございますので、全く新しい校舎を建てるとか、そういうことではございませんが、当然多部制・単位制にかかわっての必要な施設設備等の充実を図っていく必要があると思っております。

また在校生とのかかわりということでございますが、多部制・単位制になりましても当然午前中から午後に、そしてまた夜間という、そういう時間帯で生徒が活動しておりますので、ひとつの校舎の中におりますから、クラブ活動あるいは学校行事、そういったところでは連携を図りながら進めていくということになるかと思えます。

いずれにしても、その学校運営にかかわっては具体的な学校が決まった以降、そういったどういうシミュレーションでいくかということ、そこに学ぶ生徒たちに支障のないように考えていくということが必要であると考えております。

(若麻績委員)

そうしますと、現在の高校、学校環境の中で、19年度にスタートするということで考えていかなければならないということなのでしょうか。

そうしますと、今あの学校の中で空いている教室がいくつあるのか。それから多部制・単位制に必要な少人数クラスの設置が可能なのかどうかということまで突き詰めて、それからその規模ですね。何人募集をして、どういう教育環境をつくるのか、それがなかなか見えてこないと議論が先に進んでいかないんじゃないかと思うんですがいかがでしょう。

(中村委員長)

特に規模でしょうか。

(若麻績委員)

そうですね。

(中村委員長)

はい、事務局お願いします。

(柳澤教育主幹)

規模の問題につきましては、例えば今具体的に挙がっております屋代南高校、それから坂城高校は、およそ1学年6学級規模程度の収容定員は可能かと思っておりますが、そういう点からしますと多部制・単位制に転換をされた場合にも、現在ある教室数で十分やっていけるのではないかと考えております。

またこれも前にお話ししたかと思いますが、恐らく昼間部2、午後1とか夜間1とか、そういった程度の規模の募集は可能ではないかと考えております。

(中村委員長)

候補案と、それから候補に挙がっている2校に関して、例えば屋代南は1,000名を超えていたところがあった、確か学校要覧で見たんだと思いますが、かなり大きい学校だったと。坂城も今の定員よりもっと大きい規模だったと思います。

この点に関しては、転換していく過程というのは、教室は足りないとかそういうことはあまり心配がないでしょう。

(塚田委員)

これまでも何回も同じような議論はされていると思いますが、まずひとつは多部制・単位制を設けるということは、大方の皆さんの了解は取れていると再確認させていただきたいと思います。

それから第二推進委員会との関係ですが、私は最初のころ野沢南ということならば坂城で、ちょうど場所的には、地図の上ではいいんじゃないかという発言をした記憶があります。

全く第二通学区を無視するというわけにはいかないと思いますが、現時点で今第二推進委員会の議論が、先ほど言われたようなことで、まだ結論といかないとなれば、さっき中沢さんが言われたように第一は第一で場所を考えていけばいいのではないかと思います。

それから前回もだいたい出たように、いわゆる中心部ということで長野市の、いわゆる市街地のどこかという意見もありましたが、それじゃ具体的にどこだということでは、なかなかそれが出てこないということで、それも議論が進まないということになってくると、やはり私は前回も申し上げましたが、坂城と屋代南と、現在出ているこの2つの中からどちらかを多部制・単位制に転換をするということで、議論を進めていくことが一番いいのではないかと思います。

(丸山委員)

それは、ひとつは多部制・単位制を設置するのは大方いいというのは、多数ということではありますが、ただ私が言ったのは1つの学校を転換するという意味が非常に大きすぎるので、いろいろこれだけでもめているわけですね。地域でも学校でも現場でも、不満や反対があるわけですね。そういうところを無理して転換するというよりも、定時制に多部制・単位制的な特長を入れて、それで充実させて少しはやってみてということではどうかという話をしているんですね。

それは少なくとも私だけの意見ではなかったと思います。そういう点では、委員会の今までの経過でいくと、2校に絞って決めようという話までは進んでいないと思うのです。

その中で、多部制・単位制を設置することについて、それはいいではないかと、設置すべきだというときに、私が言っているのは、多部制・単位制がいいと言うのだったら、それはそれでいいけれども、現実に設置するときに無理がある場合には無理してやらなくても、多部制・単位制的なものを定時制に入れていく。

例えば定時制、独立校舎を持っているところは、独立校舎を少し整備をして、午後部を入れて、午後部と夜部がありますから、午後と夜部で2部にして、2部制の単位制というのは全国でいくつもあるわけですよ。

だから午後部と夜部で、それで3卒、3年で卒業できるということもできるし、それから単位制に切り替えていけば単位制というメリットも生かせるし。そのときに、午前部ないじゃないかという話だけですよね。だから、定時制にそういう独立校舎を持っている定時制が長野地区にはあるわけだから、そこにそういうのを入れるということを含めて検討したらどうだと。無理して1つの学校を転換する必要はないんじゃないかという意見を、私は定時制の充実ということと言ったわけです。

だから定時制の充実というのは、単なる定時制の充実じゃなくて、そこに多部制・単位制的なメリットを入れるということなんです。そういうことをずっと言っているんで、それは決して私だけの意見だったらいいいんですけど、2、3の方々はそれぞれ賛成をしてくれたように思います。

そういう点では、多部制・単位制がいいということは、メリットがあるとか魅力づくりとしてはいいシステムだということはわかりますが、そういう無理をしてまでやる必要はあるのかということと言っているわけで、そのところはなかなかまとまらないと私は思います。

(中沢委員)

私が何度も皆さんにお願いしているのは、長野地域で、市内で多部制・単位制的な機能を持つ学校ができないかと。皆さん、それをみんなで工夫を凝らして知恵を出していくんだよと、こういうことをしょっちゅう言っているわけです。

今、例えば丸山先生が言われる中で、定時制を生かして多部制・単位制の機能で、そして午後の部あるいは夜の部を入れていくようなことだって、具体的にできるではないかというご提案があったのをお聞きすると、では丸山先生、具体的にどこの高校をどういうふうにというようなところまで提案していただきたいと思うのですがよろしくお願いします。

(中村委員長)

なかなか具体名というのは挙げにくいのはわかるのですが、丸山委員お願いします。

(丸山委員)

この前、県教委もはっきり言いませんでしたが、定時制で独立校舎を持っている学校はどこですか。長野高校と長野商業じゃないですか。違いますか。だから独立校舎を持っているところ、あるいは定時制の独立校舎をつくるというような形だっていいですよ。

それでそこに午後部を入れる。確かにそうすると、そういうのは難しいというのは全日制の生徒と定時制の生徒は、なかなか一緒には居たくないというか、居にくいというか、そういう定時制の子は多いんだというのはあったけど、それはそれでそういうことはあるでしょう。

あるけれども、それはいろんな形での対策はできるでしょう、それは。独立校舎ということになればね。もちろんそれでも独立校舎を仮につくっても、グラウンドとか共通するものがあるから、いろんな問題点はある。もちろん100パーセントじゃないですよ。

けれども、そういうことはできないのかということなんです。つまり、校名を挙げるといったら要するに定時制の独立校舎を持っているところを、不完全ならそれを充実させ

るということとはできないのかということです。

（中村委員長）

現状の定時制を充実する方向でも、かなり努力がいます。それから全日制の生徒との授業や体育館、グラウンドの使い回しの苦勞などの面で、同じ努力をするなら、新しいシステムで、その課題を長野県らしいやり方で解決するような、そういう新しい高校をつくっていくほうが、私はいいのではないかなと思います。

特に検討委員会の議論を聞いていても、そういうことを思いました。それから努力といっても経済的な話もありますし、それから先生方の労力も必要と思います。

多部制・単位制には、もっと自由度があるわけです。それを実現するには、やはり独立校舎で、定時制のネットワークの中の中心校としていくという役割も提案されているわけですから、やっぱり新しいものをつくっていく方向で、ぜひ話を進めたいと思います。

もちろん現状の定時制を充実するという方向は必要とは思いますが、それはやはり限界が見えてきているんじゃないか、その結果多部制・単位制が提案されてきているのではないのでしょうか。

（清水委員）

私も以前より定時制あるいは通信制、そういったものをなお充実させながら、多部制・単位制の要素を取り入れることができないかなということを発言させていただいていた 1 人ですが、確かに多部制・単位制の良さというものを前提において、私が見させていただいた静岡中央のように、新設高校であるならば、もう何も問題ないなとは思いますが、ここで 1 つの高校を多部制・単位制にするということは、総合学科の学校にするというよりも、はるかに難しいというか、大変なことだなと思っております。

故に、やはりどれを選択するにしても、大変な努力と苦勞が伴うということもよくわかりますが、ただ、今この第一推進委員会の流れとしては、やはり屋代南あるいは坂城高校というものが現実に名前が挙がっていて、この委員会の中において多部制・単位制の位置というもの、高校の位置というものを考えたときに、都市部ですとか交通の利便性が、それだけの理由ではないですが、そういったものを優先的に考えて長野市内というような話が出たんですが、それも具体名が挙がらないというようなことからすれば、やはり先ほど塚田さんがおっしゃられたように、何らかの方向性を見いださなければいけないということであるならば、やはりその 2 校に絞っていかざるを得ないのかなとは思います。

確かに交通の利便性や誰もが通えるという、そういったことも捨てがたい要素ではありますが、もうひとつ見方をちょっと変えてみれば、高校生がどういう基準で高校選びをしているかということに着眼してみる必要があるのではないかなと思うのです。

例えば具体的な高校名を挙げることは問題があるかもしれませんが、進学校へ行きたいという生徒さんもいるでしょうし、その学校の校風とか生徒活動あるいは部活、そういったものに魅力を感じていく、そういった生徒も当然います。これは坂城高校と、それから屋代南のことに限って言うのではないのですが、特色ある、あるいは魅力のある学校、みんなどこもそういったことでご努力されていることは重々わかりますが、そういったことと高校を目指す子どもたちのニーズとが一致していない高校というのが、私はあるように

思うのです。

つまり「うちの高校は、こういったものが売りですよ。こういったことで非常に人気があるんだ」というようなことが、やはり自他ともに目標として認められているというものがあると思うんですね。そうした場合に、確かに坂城高校にしても屋代南高校にしても、定員割れというようなことは現状ないわけで、それ以上に立派な学校でもあるわけですが、多部制・単位制の高校が魅力であるという、非常にそういったことはこの推進委員会の中で認められていることですので、私とすれば「我こそは」といって手を挙げてくるような学校があってもいいんじゃないかなと、逆に思う部分もあるわけなのです。

将来、こういった学校を目指していくのかということに、思いあぐんでいるというか、ジレンマに陥っている、そういったような高校がないとは言えないんじゃないかなと。これはちょっと、私の推測でものを言って申し訳ないんですけども、そういったような、要するに入ってくる高校生と学校の運営とのギャップというか、そういった風潮があるといいましょか、そういったこれからの高校のあり方というものに対して、弱みを持っているような、そういった状況の高校があれば、そういった点からも多部制・単位制に換えていくことによって、その学校が非常に魅力ある高校に変わり得るというようなことで、高校を選んでいく、多部制・単位制の高校にしていく高校を選ぶ基準にしてはどうかと、ちょっと考えたわけですがいかがでしょうか。

（中村委員長）

私も、誘致をしていただけるような魅力だと思っていたのですが、なかなかそうはいかなかった。そのひとつはやはり学習不適應や不登校というものが前面に出てきている。これが悪いことではないとは思いますが、やはり多様な学習經歷を持っている生徒も受け入れる。ほかにも魅力をつくっていけるということで、あまり狭く考えすぎるんじゃないかなと思います。

地域と連携してやっていくのに、多部制・単位制に轉換されては困るというようなご意見もありましたが、私は今候補に挙がっている高校というのは、例えば坂城は工業ということで地域連携が候補案では主張されていますし、屋代南は商業ですかね。屋代駅から西へのびる通りというのは非常に明るくて広々としていて、電線の地中化もされているんでしょうか。活気があるように思いますから、こういうところは地域産業界との協力、これは最終報告書に書いてあることですが、地域産業界との協力というのはやっていけるのではないかなと思います。

ですからあまり一断面だけ見て、多部制・単位制が嫌われてしまっているというのは、もう少し勉強していただきたいなという気がします。「勉強しろ」というのは、私は職業柄仕方がないのでお許しいただきたいのですが。

（丸山委員）

今、清水さんがおっしゃったこと、私もあのとき実は最後ぐらいに言おうかと思いましたが、今度の改革は、もしこれがスタートするとして、これは県はどのように考えているかわかりません。それは私もすごく不安ですが、実施計画を立てて準備をしていくのは、

いったい誰が主体かということがあると思うんですね。

現実には、現場の先生たちがかわった、統廃合にかかわる学校を中心とした先生たちがつくっていくことになると思うんですね。それから、その地域ですね。もちろんそうならなければいけないと思うんですね。そういう点では、やっぱり地域や現場が、「よし、じゃあやろうか」となるような、状況がなければ、無理しないほうがいいと。

「無理しないほうがいい」というのは、絶対やるなということじゃないんです。何年もかけても、そういう時間をかけてということも含めてですが。そういう点でいくと、例えば私の意見は前に申し上げたとおりですけど、中野などは地域も現場も、いろんな意見があります。いろんな不安や希望や心配もありますが、そういうふうな方向でやろうという方向が出てきているわけですね。

それはこれから学校づくりをしていくには、すごくいいことなんですよね。生かせるわけです。ところがこの多部制・単位制問題は、今、委員長さんがおっしゃったようなことももちろんある、もちろんそういう一面はあるかもしれませんが、やっぱりなぜ望月のように、「うちの学校にやらせてくれ」と出てこないかっていうところが、実は問題なんです。

だからそのところは、私は無理しないでということで、もしそういうことで、いろいろやっていく中で、もし多部制・単位制、やっぱり切り替えていこうというのが内発的に現場からというか地域から出てくることだってあり得るわけですね。

なぜかと言うと、今まで多部制・単位制はなかったわけで、松本で筑摩高校が正式にできるわけですよ。多部制・単位制をやっていくわけですよ。あそこは多部制・単位制的なところもありましたが、全日制が今までありましたからね。全日制をなくして、完全な多部制・単位制をやってみようという、そういうことが何か4通では議論されているようなので、そうすると多部制・単位制の何というか実践もできるわけですよ。

そういう中では、やっぱり内発的に地域や現場から、「よしやろう」と。それでうちの学校は、変な言い方だけど再生していこうというようなことが出てきたところで、やっぱりやるべきであって、1つの学校を転換させるのに、その学校の地域では困ると言っているという部分が無理があるんですよ。

だから今度の改革は、そのところが一番大きな問題で、特に多部制・単位制はそれを感じるの、私はさっき言ったようなことを言っているということです。それは、だから多部制・単位制を永久につくると言っているわけではないんですよ。

定時制に、そういう要素を付けてやってみて、ほんとにそれがうまくいくということだったら、またじゃあどこかでつくろうと考えるかということだってあり得るわけですね。

あるいは今度、統廃合がさらに進むことがあり得るので、そうすると空いた校舎が使えるということだって出てくるわけですよ。そういうふうに、ちょっと長期的といいますか、少し先を見通した上で考える必要があるんじゃないかなと思います。

少なくとも内発的にというか、そういう部分がないというのは非常に私は心配。現場の教員として見てみると、非常に心配だと。それは、なぜ出てこないというのは、単なる勉強不足ではなくて、やっぱり私が最初に言ったように、多部制・単位制は総合学科と違って、完全に違う学校になってしまうと。同じ名前だとしても、違う学校になってしまうというイメージが、だからダメだと言っているんじゃないですよ。違う学校になってしまうというイメージがあるわけですよ。

そのところが、やっぱり現場では心配はしているんで、だからなかなか多部制・単位制に切り替えるということに対して反対があるんだということだと思うんです。

（小山（壽）委員）

今までの議論を聞いてきても、基本的には丸山委員さんの申している面がないわけではないですが、流れとして見るならば、やはり屋代南、坂城のどちらかを選択して多部制・単位制に転換をします。そういう方向で、今、議論は進んでいるのではないかなと思うわけです。

ただそういう多部制・単位制高校をつくっていくについて、さまざまな利点や、あるいは課題があると。じゃあ、その課題をどうやってクリアしていくんだろう。まだ地域の理解を十分得られていない。それならば実施計画を作っていく段階で、地域の理解を得られるような努力を、やはり県もしていかなければいけないだろうし、あるいは推進委員として議論をした、それぞれの私を含めた委員さんにも、そういう理解を得ていく、そういうような責任はあるのではないかなと思っているわけです。

やはり議論というものを前に進めていかなければいけないだろうな、そういう感じを持っています。

（森野副委員長）

先ほどの、地域の熱望といいますか、先ほどお聞きしたわけですが、群馬のフレックスでは、結局危機意識があったんだろう。廃校になると。それで地域が立ち上がったという経過ですね。

ところが坂城にしる、この屋代南にしる、そういった危機感というのは現在まだお持ちになっていないわけですね。生徒数が募集に達しているという安堵感があるから、群馬のような形には、なかなか自分が立ち上がらないんだろうと私は思っております。

それで今まで、いろいろ言い尽くされてきたかと思いますが、ここまで来るとやはり痛み分けといいましょうか、そんなところへいくんじゃないかなと、私は思っております。

今お話のとおり、市街地がいいんだと。利便性がいいということですね。やはりみんなが通えるところということになります。

私は、データとして必要だなと思っておりますのが、現在通っている、定時制へ通っている生徒の出身地だとか、あるいはどこの定時制へどのくらい行っているとか、あるいは不登校とかね。あるいは学習困難児であるとか、そういうような内容的なことが、県教委さんのほうでおつかみになっているのかどうか。

先ほども商業あるいは長野の話が出ました。そこへ通っている生徒は、どういう状態なんだろうか、実態なんだろうか。そうすると、今度市街地、市内ですね。ここに多部制を持てきたいけどないんだということになると、やはり交通の利便性ということになってくると、屋代かな。これこそ、痛み分けということになってくるかなと思うんですね。

ですから、そこまでいかないとお互いに今のところ意固地ではないですが、そのように感じられてくるわけです。ですから、何かこうお互いに許されるものがあれば許し合うと。それでいい方向へ、一歩でも進めるというような方向が取れないものかなと思うんですけれどもいかがなものございましょう。

(中沢委員)

立場上、いろいろと提案もさせていただいたわけでございます。そうした中で大事なことは、多部制・単位制を新しくどこかへつくるということになれば、どこの場所がいい、どこのということになるけれども、そうでなくて既存の高校を衣替えしていくということになると、いろいろな複雑なその学校の歴史とか積み重ねとか周辺環境とか、そういうものをいろいろ加味していかなければいけないとそれが大事だと思うわけでございます。

皆さんにも、何回となく申し上げていることで、こういった議論のひとつの基礎的な考え方でございますが、坂城高校の場合には、しなの鉄道沿線で10キロごとに必ず全日制の高校があるということでございます。

そういう中で、まず坂城高校の全日制の高校は、何としても大事な高校で残すべきそういうものがありやしないかと。そしてまた、今、坂城高校の場合には、上田地域と長野地域を結ぶといえますか、上田地域から4分の1の生徒がやってきているという、調整区でもあるわけでございます。

そしてまた入学者等を見ますと、屋代南高校の場合は地元の関係が20パーセントを欠いているかと思いますが、坂城高校の場合は、地元校として40パーセントの皆さんが、地元校として入学されているということで、地元との根差した関係がより強いと思います。

合わせまして坂城の工業を育て、また農業を含めまして担っているのが坂城高校だということにもなるかなと思っております。そしてさらに千曲市においては、普通高校が2校ございますが、坂城高校は1校ということでもあるわけで、そういう中での論議も必要だなと思います。

さらに今の子どもたちは、多様なニーズを持っているわけでございます。坂城の場合には「テクノ坂城」ということで、1,600億円ぐらいの工業出荷額がございしますが、千曲市は2,000億円の出荷額があるということで、工業の面においても強いものがあるし、それ以上に歴史館とか、あるいは森將軍塚とか学ぶべきものもあり、農業の面からいうと、ほんとに集約農業が行われているところでもございます。

さらに長野市から近い河東線もある、西山とも近い等々を加味していただきますと、長野にほしいが、坂城か屋代南かということになりますと、より屋代南に願うほうがベターだなと、こんな思いもするところでもございます。

4年前に坂城高校の場合に、第2グラウンドを造りまして整備し、それは普通高校で頑張っていくという、ひとつの道筋にもたっているわけでございますので、その辺を皆さんにもなにぶんよくご理解いただいて、いろいろなご意見をいただければありがたいなと思う次第でございます。

(中村委員長)

自然と2校の検討になってきたかと思いますが、何かご意見はありますか。2校の検討が一番大事なのは、やはりそこに多部制・単位制を設置したときの課題が解決できそうもない課題であるというときには、これの設置は見送ったほうがいいのかと思うんですが、そういう点が挙がらないのであれば、方向性としては2校へということだと思いたいです。

(小山(元)委員)

いろいろご意見も出てきているわけですが、やはり普通科高校にしる実業高校にしる、地域住民の方々、われわれが今まで実際に見てわかっている、そういう高校の内容が統合していくというならば、割合と様子はわかるんです。

しかしこの多部制・単位制の場合には、全く今まで長野県のわれわれにすれば、ほんとに体験のなかったそういう高校ですね。だからわれわれ自身は、委員の立場で県外視察をやってきて、実情をつかんできておりますが、今候補に挙がっているその2つの地域にしる、またほかの地域にしる、多部制・単位制というのはいったいどういう姿なんだろうかということが、地域の住民の方々自身は、やはりその姿は見えないと思うんですよ。

ここで一番大事なことは、多部制・単位制ということが挙がってきた場合には、候補に挙がったその高校を持っている地域の方々というのは、実際わからないという立場から守りにはいるような態勢が出てきてしまうんじゃないかと。これはどこでも候補案に挙がった高校の地域の方々は、やはりそういうところは否めないところはあるんじゃないかと思えます。今までたくさんのご要望、ご意見をいただいているわけですね。

ですからやはり一番高校を支えるのは、その地域であり、やはり地域の方々の応援があればこそ、ほんとに高校というのはその地域に成り立っていくわけでございますから、いわゆる地域にその多部制・単位制を理解してもらって、そのところへ設置していくのか。または一応設置することを決めて、そしてその地域の方にご理解していただいて、発展させるような今後のことを考えていくのか、やはりこの2つの方法があると思うんですがね。

そういうところで見えていった場合に、じゃあ今候補として挙がっている2つのどちらに焦点をといることを、私自身はどちらかということを決めかねているわけですが、今の2つの地域にいかん理解を求めていくか。このことはやっぱり大事にしていく必要があるんじゃないかと。それが一番元に据えていけないなと感じるわけです。

やはり地域の方々に、具体的なそういう姿が見えるような内容でご理解いただく、それが第一で、そしてその上に設置する方向というのを大事に考えるべきではないかと。単なる少子化で統合していく。それは今までは普通科および実業高校との統合とは、ちょっと異質な内容がありますので、その点十分理解を求めていく必要があると思います。これは当面のことではないかと。交通の利便性すべてのことはありますけれども、また3つの午前、午後、いわゆる夜間のということで、そこで学ぶ生徒、そしてやはり不登校の問題もたくさん今、県としても大事に持っていかなければいけないところ。

それからまた高校の中退者の方々も、そこで勉強したいという方もたくさんおられるという話も聞きます。あらゆる条件から考えながら、この多部制・単位制は、それほど慌てなくてもいいんじゃないかというのを私は考えます。

(青木委員)

今の小山(元)委員さんのお考え、大変共感を覚える部分がありますが、これからの地域の中での高校教育を考えたときに、これは県教委が考える問題だというように、もしかってそういう思いがあったとしたら、やはりこれからの地域の高校のあり方を考えたときには、それはもう根本から改めていかなければいけない問題であると思います。

高校教育は、やはりその地域にある高校の地域住民も中心に考えていかなければいけな

いことですし、それぞれの市町村教委も義務教育だけを担当する、われわれの役割分担はそこまでだという考えから、そこはやっぱり一歩踏み出して考えていかなければ行けない状況に来ているんじゃないかと思います。

この2点からするならば、もし多部制・単位制というものが、まだ理解不足であって、やっかいな「お荷物」なんだと。検討委員会が、私ども推進委員会に投げかけた、そのお荷物を、どこにその荷物を背負っていただくかという議論をしていたのでは、全然前に進まない状況に、今陥っていると思うわけです。

そうだとするならば、地域の、ぜひわが地域に多部制・単位制の高校を転換してでもほしいと。また地元教委も、そのような方向で一緒になってやっていきたいというような空気が、醸成されるということが第一の条件であるのではないかと思います。

私も丸山先生とともに、中野市が総合学科高校という大きな課題を投げかけられたところに住む者の1人として、痛みも感じた時期もありました。それと同時に期待を持てる、期待をして新たな転換の中で、どのようにして中野の地域発展、中野の子どもたちのすばらしい高校を目指すという、夢を描くという終着点を提供できるかということでは、大きな期待感を持てるような状況に今、来たわけであります。

そのような痛みと期待と両方経験した立場からするならば、やはりこの多部制・単位制を設置するだろう、転換するだろう地域でも、それぞれの思いがわき上がってこなければいけないのではないかと思います。

この1月の、きょうのこの日に、いよいよ終局を迎えるこの場において、どうしても今まだ委員、皆さんの意見が、方向としては間違いなく多部制・単位制はこの第一の中に必要であるということは皆一致した思いであります。

だから全体的には坂城か屋代南かと、一見その2校に集約された感が見受けられると同時に、さらなる、名前は具体的にはまだ出ておりませんが、市街地ということもちろほら聞こえるような状況でありますから、もし許されるならば、積み残しのような形だとしても、多部制・単位制の設置を認めながらも、もうちょっと時間をかけて具体校名を決定するにはという、いわゆる見切り発車的な段階を踏んで、推進委員会でその結論を出すなんていうことも、可能ならばこの問題だけは、そのようにしてもいいのかなと今、感じているのが実感であります。

(中村委員長)

こういう方向はどうでしょうか。今2校挙がっていますが、推進委員会として交通の事情、第1通学区から通える、あるいは多部制・単位制の役割等を考えて、また地域の全日制普通科があるかないか、そういう課題も挙がっていますが、議論してきた内容をすべて踏まえてある1つの所に絞ったと。その上では、その地域の方にご理解いただければ、今後多部制・単位制のまだわからない課題、これから良い学校にしていかなければいけないという未経験の部分、夢でもあるわけですが、その部分を地域の方々と一緒に解決しながらつくっていかなければいけない。

だからそういうことを付帯事項としながらも、どこかに決めていくという方向はいかがでしょうか。推進委員会は、そういう役割を持っていると私は思います。地域の反対があったら実現できないというのは、今、青木委員がおっしゃるとおり、最近の状況だと私も

理解できますが、推進委員会が任された議論、検討事項という中には、やはり第1通学区全体あるいは長野県全体の高校の改革を考えた上で、多部制・単位制の配置を検討していくということですから、議論がこれ以上進まなくて決まらなかったという、そういう報告もあろうかと思いますが、今はまだそこまでいっていないような気がします。2校に絞られてきたんではないかと思いますが。

(丸山委員)

今の段階でというか、もうあと期日も現実ないということからして、この前委員長さんもおっしゃったように、方向が出たところはそれを書くということで、少数意見というか、それを書くかどうかということは、課題がありますが、この問題は2校のうち、どこかに絞るということまで踏み込んでいいのかなと私は思います。

2校が出たということも含めて、いくつかの意見を列挙するというで、そういう課題や意見があるというまとめ方が、一番現実的ではないかと。それは、それを受けて県教委がどうするかという、もっともなことはありますね。その中で地域がどう動いていくか、地域や現場が動いていくかということもありますのでね。

その中で、今出ている、いくつかの委員の皆さんから出ている、地域の合意というか、地域が受け入れるというか、青木さんのことをおっしゃれば、痛みと期待という、そういうことからやってみようという動きが出てくる段階で、そのうち出てくることもあり得るわけで。

今出ている意見の主なものをまとめて書くということのほうがいいんじゃないですか。というのは、私は個人的に言うけど2校と言っているけど、名前が出ないだけで、じゃあどうしても2校だけがベストなのかというと、よくわからないんですよ。本当に校名を挙げていけと言えば、私は基本的に反対ですから挙げないですが、校名を挙げていけと言えば、もっといろいろあるんじゃないですか。

ただ今の段階で挙がったら、そりゃ大変なことになるのでね、それは。だったら何で、何で屋代南かという話が出てくるでしょ。坂城は県が出したと。しかし坂城は、町に1校しかないというのは、かなり強力な意見ですよ。1校しかない学校を、どうしていくんだという話をね。それは私も理解できる。

議論の中で屋代南は出ましたが、それはほかのところだって出る可能性だって、これを続けて議論していけばあるわけですよ。どうしてもって話になればね。そういう点では、2校だけに絞るというのは、たまたま話じゃないのかなという気がするんで、2校ももちろん報告に書くことは仕方ないと思いますけれども、やっぱり今の意見の状況を、そのまままとめるということのほうがいいんじゃないかな。しょうがないんじゃないかって、もう時間切れで。

(小山(壽)委員)

現実的にはやはり、何遍か多部制・単位制については議論をしてきているわけで、その議論をしてる中で、やはり2校しか校名は出ていないということは現実だろうと思うのです。

それでなかなか実際問題として、校名を挙げて議論するのは、確かに難しいです。しか

しそういうような中にあっても、なおかつ校名が挙がってきたということでもありますので、これ以上校名を広げるということは当然考えられないことでもありますし、以前校名を挙げて議論する場合には、やはり学校に混乱を生じさせることになりますので、やはりある程度の根拠をもって校名を挙げてほしいというようなお願いも、この委員会の中でしたことがあります。

そういう意味でいえば、そういう中で議論は進んでいるということ、やはり共通理解として持つべきではないかと思うわけでもあります。

(中村委員長)

ほかにございますでしょうか。

ご発言いただいてない方、2、3いらっしゃると思うのですが、ご発言いただいてある程度どちらの方向かというのを見たいと思いますが。指名してよろしいでしょうか。

宮本委員、よろしいですか。

(宮本委員)

青木さんや清水さん、小山さんに出していただいた意見に近い形です。先ほども出ていますが、初めのスタートの段階で多部制・単位制の高校について失敗したなと思うのは、先ほどもありました、厄介物みたいな形で出てしまったものですから、地域の理解がもうストレートに出てしまいまして、私自身もかなり魅力感じており、地域から手を挙げてもらって、「ぜひ」というような形で少しずつ地域との連携を深めていかなければいけないかなと思っていました。

この前にも話しましたが、昨年度出ました検討委員会の最終報告書にはこう書いてあります。「実戦的職業訓練やインターンシップの場として地域の産業界の協力を得て高校生の職業観を育成するとともに、高校生による地域貢献を位置付けし、地域社会と連携、融合した学校づくりを、第一の基本方針として提案している」というように、長野県としてのふさわしい多部制・単位制についてということで、かなり大きな夢を持ってスタートしている検討委員会の報告書です。

それをどうも、一部分の話し合いの過程の中で、出方が悪かったのか、うまく話し合いができなかったのということで、地域からストレートにステレオタイプのところで出てしまって、なかなか研究というか先ほど出たように、「勉強」という段階に進まなかったし、うまく私自身としても話し合いができなかったというのは、うんと反省をしているわけです。

そして県案も出ましたが、また話し合いの段階では屋代南という名前も出たりして、なかなか話し合いの難しさもあって、なかなか地域との理解も得られないような状況で、何か先ほども出ましたが、どうしても地域として受け入れないというようなことが出てしまって頭を抱えているわけです。

そうなると、どちらが1校というよりも、何かぜひそのところ、高校がいいのではないかと決めたのではなくて、どちらかというところ「そっちに引き受けてもらう」というような話し合いになってしまって、どうも決め方についての考え方が少しずつずれてしまっているということで、どうも困惑していることは確かです。

どちらが1校というようなことではなくて、もう少し地域で理解が、あるいは手を挙げていただければ、本当はうれしいのですが、話し合いの方向で、では1つを、となると、どうも難しくてマイナス志向の話し合いになってしまって、残念にうんと思って、多部制・単位制のこれからがちょっと心配になってくるような、私が今思っている意見です。

（中村委員長）

ひとつだけ、すみません。手が挙がったらそこをお願いするのでしょうか。これは、ちょっとまずいのかなという気がするのですが。

（宮本委員）

手が挙がったというよりも、やはり地域に理解していただいた上でというようなことが、この検討委員会の報告書にあり、それも大事だなと思ったものです。

（中村委員長）

では、坂口委員お願いします。

（坂口委員）

具体的にいくつかの高校の名前が挙がっており、それぞれの立場のお話をお聞きすれば、これは残して、やはりそこに通う子どもたちが、あるいは地域も含めてさらに発展していったほしいというのが、正直な思いであります。現実には統廃合やむなし、あるいは多部制・単位制も設置していきたいと思えます。

先ほどから地域あるいは市町村教委の、やはりこれからの高校へのかかわり方が、今までとは違う方向でというお話、まさにそのとおりだなと思う反面、やはり長野県の高校教育をこうするんだという、その一番の土台をまずしっかりとわれわれが今、理解をしていかなければいけない時期なんだろうなと思えます。

どうもやっぱり、統廃合だけにどうしても目が行って、魅力というところにも力を入れてあるわけですが、もう少し長い目でほんとに長野県のエデュケーションをといたときに、義務も当然加わっているわけですが、高校のあり方をほんとにどういう高校生、もっと広くいえばどういう長野県人を育てていくかということころは、どうも私自身もあまり煮詰めていない部分もあるし、理解していない部分があるかなと思えます。

ですからやはり、県に教育委員会の主体性というものを大いに期待をしているところでもあります。

具体的にもう名前が挙がっている高校、どちらがいいか、ことに利便性、その他、考えれば、どちらかといえば屋代南のほうが総合的に見ればいいのかなと思えますが、それはあくまでもそこに学校があるという、校舎だけを見たときに、その位置ということだけで決められるわけで、ただ坂城高校のお話もお聞きし、また屋代南高校の本日いただいた資料を見ると、3年生109人、2年生182人、1年生197人と、年々入学数は多くなっているという現実もある。これを、どのように考えたらいいのかということもあります。

それから、つい先日第二推進委員会の推進委員の校長と話したときに、望月高校は積極的に自ら手を挙げて承知していると。しかし、どうしても利便性ということから考えると、

なかなか理解を得られない状況であると。もし中条高校が、うちを多部制・単位制といったときに、じゃあまさに認められるかという非常に大きな問題。利便性だけでも問題がある。中学校とすれば、ほんとにそこへ行きたいという子どもに少しでも、「遠いけれども、若干時間がかかるけれども、おまえそこへ行って頑張ってやってこい」と、そういう自信を持って送り込める高校づくり、多部制・単位制であってほしいと思います。

ですから具体的に、その高校名が今挙がっていますが、中学校の現場とすれば、その最終的には、その学校の魅力。ほんとにそこへ行って、自分の力を発揮してこいということを指導しつつ大事にしながら、その高校へ送り出したい。

ですから私の今の思いとすれば、具体的に高校名が挙がっておりますが、今の段階ではどちらかに決めるということは、非常に難しいという思いであります。ですから今のこの推進委員会で出ている声を、県へ報告していただければいいのではないかなと思います。

だから県よりも決まっており、具体的に県のスケジュールでいくと、もう3月には実施計画の作成、18年度は実施計画の着手と、この作成と着手のその中身が、もう少し具体的にはっきりしないものですから、もう前期の出願、それから後期の出願をするときに、まだ具体的にどこの高校がどうなるかわからない状況で指導していかなければいけないというようなこと、これは今の3年生にとって、非常にある点では無責任ではないかなというような気もする思いであります。

いずれにしろ、ちょっと2つの高校名が出ていますが、私自身どちらがいいかということとは、ここで「こうだから」ということで説明は、結論を出させないという状況であります。

(中村委員長)

市川委員、多部制・単位制について意見を、皆さんにお聞きするということで進んでいきますのでお願いいたします。

(市川委員)

大変遅れてすみません。

多部制・単位制については、私は基本的にはあるべきであると思っていますし、今まで皆さんと議論をした中で、2つの高校名が出た、それ以外に出なかったのが現実のような感じがしております。そういう中で、どちらにするかというのは今、坂口委員が言われたように、私もここで結論を出すというのは非常に難しいなと思っておりまして、この2校を中心として検討すべきであるという提言でまとめていくのがわれわれの推進委員会の案かなと思っていますところでございます。

(中村委員長)

ほぼ、報告書としての方向性出たかと思いますが、校名が2校以外にあるではないか。ただ具体的に挙がらない。それは坂城高校よりも、屋代南のほうがこういう点で優位性があるということで、ご提案いただいている。さらに屋代南よりも優位性のある別の高校は出てこないと判断させていただいてよろしいでしょうか。

そうすると、2校の方向でと、今、市川委員がきちんと把握されて指摘していただいた

ように、2校中心として検討してすべきであるという方向性。いろいろ付帯事項は付くと思うのです。地域の理解、それから第1通学区全体からは通えないとか、そういったことにほかに対処すべき事項があるというような、今までの出たご意見は議事録に残っておりますので、その文言は付け加えるとして。

そうですね、どうしましょう。いったんリフレッシュしてからにしましょうか。それともこのまま続けましょうか。

（丸山委員）

全体に、そういう方向なら仕方ないと思いますが、ぜひ私だけの意見じゃなかったと思いますので。定時制にそういう要素を、多部制・単位制の要素を付け加えてという、そういう次善の策もあるのではないかという意見があったことは付け加えてほしいと思いますし、それからもう2校を中心という話になっているから、それはそれでここであまり反対するのもしょうがないと思いますが、私が挙げられなかったということをいうのは、これは率直に言わせてもらおうと、屋代南のメリットはもっと違ったメリットで、そのことのメリットをもっとやるとしたら、もっと近いところだってあり得るわけですね。

だからたまたま屋代南が出たということだと思えますね。それはそれで、言いつ放してしょうがないですが、そういう点では私も言った定時制にいろいろ困難があるし、1つの学校を転換するという問題が、現場や地域ではまだなかなか受け入れられていないので、優遇策としてそういう定時制に多部制・単位制的要素を入れて、少しやってみた上でまた検討していくということも、ぜひ付け加えてほしいなと思います。

（小山（壽）委員）

現実的に、今の定時制で独立校舎を持っている学校はいくつかある。昔は全日制の生徒が帰った後に、全く同じ教室を定時制の生徒が共有して、定時制の生徒が同じ教室で授業をやっていたわけですね。

ところが、だんだんに定時制の規模が縮小していきたくともある。定時制の生徒のためだけに、単独校舎をつくるようになってきているわけです。ところが、例えば長野商業でいいますと、長野商業は単位制を取っておりますし、いわゆる特設の授業を前に張り出すことによって、3年間でも卒業できると。あるいは途中で編入してきた生徒についていえば、単位の取り方によっては非常に短期間で卒業できると。9月卒業もあるということが出てくるわけです。

そうすると、それをやるためには、定時制棟の教室だけでは足りなくなって、全日制の教室へ定時制の生徒が行って、全日制の校舎も使いながらやらないと、もう校舎が足りなくなる。

私は以前上田高校におりまして、上田高校も特設授業をやるということになると、特設授業をやるためには全日制の教室へ行かなければいけない。だから定時制の生徒の授業が始まる時間帯は、全日制の生徒のクラブ活動の時間帯になりますので、グラウンドの利用が非常に厳しい。

どうしても、なかなかグラウンドでの体育の授業が困難である。では、体育館だったら可能かということ、体育館でもクラブ活動をやっておりますので、そうすると体育館でも、全

日制の生徒のクラブ活動の時間を制限している。何時までには、何曜日と何曜日は何時前に終わらせてくれ。そしてその後の時間を使って体育の授業をやっていると。非常にやりくりをしてやっているわけです。

そういう中であって、さらに今定時制を充実させて、多部制・単位制のようなありようをつくっていけというのは、現実問題としてこれはなかなか難しい。そういうことも、やはりきちっとご理解いただければなと思います。

(塚田委員)

私も松本筑摩を見学させていただいたときに、校長先生の説明が印象に残っていますが、全日制と、それから今定時制というんですか、単位制と併設されているのですが、学校の目標として全日制の生徒と、それから定時制単位制の生徒との友好を図るということを、学校の目標として掲げていたんですね。

それでこれを掲げるからには、「うまくいっているんですか」という話を聞いたら、うまくいっていないから掲げていると。現実問題とすれば、やはり子どもたちの思いの中で、うまくできない部分が相当あるという話を聞きました。

それから、これは一般論として聞いた話ですが、やはり全日制と定時制が一緒にある学校は、どうしても子どもたちの交流を図るということが非常に難しいと。はっきり言うと、定時制の子たちは全日制の子たちを避けたがるというような傾向がかなり強いと。

そんなこともあって、学校とすれば文化祭を一緒にやったりというような、そういった機会を設けるが、なかなか難しいと。定時制の子どもたちに、特にそういう思いがあるとすると、やはりそういう思いも大切にするとしたら、やはり校舎、独立校舎とはいうものの、隣同士というのは、今も言った定時制を充実していくということで、今言った多部制・単位制に換えていくというのは、ちょっと難しいんじゃないかなという感じがします。

(中村委員長)

独立校舎で多部制・単位制を設置していくというのは、多分もう皆さん方、ご理解いただいているところだと思いますので、やはり配置、どこにするかというのが最終的には残ってしまったと思います。

2校を中心としてという表現が、それを解いてしまうと1校に絞られてしまいますので、1校に絞っても同じかなと私は思います。

何かご意見ございますでしょうか。

では休憩の後、もう一度、再度方向性を確認していきたいと思いますので、20分まででよろしいでしょうか。ちょっと長めに、申し訳ありませんが、あの時計で20分まで休憩ということでお願いいたします。

【休憩後再開】

(中村委員長)

それでは、再開したいと思います。

なかなか決断をして、委員会としての方向性を示すにも、もうちょっと話し合わなければいけないかなという気持ちもあるのですが、もう少しご意見をお伺いしたいと思います。これはかなり以前から議論してきていますので、推進委員会はまだ、もう1、2回開けますので、宿題として次回にきちっと決めるという方向でもよろしいかなと思うのですが。

いったん、考えていただく時間を置いてよろしいでしょうかね。

(中沢委員)

いいですか。

多部制・単位制には、最初のころ2回、3回にわたって話し合われた経過で、いろいろなご意見があったと思います。また今回、そういう中でだんだん難しくなってきたということも事実かなと思います。

委員長がかつて、いろいろな意見を十分自分ではいろいろまとめてあるから、そういう上に立って、ひとつの案を出すことも、ひとつの方法かなと言われたこともあると思うんです。

せっかくこのように話し合われたとするならば、例えば次回にそういうふうな結論にするんだったら、その今までのご意見の中でいろいろあるけれども、例えばAとBに対しての、いろいろな優位性の、いろいろと論じられたとか、そういう中での話しとか、さらにまた実際大事なことは、多部制・単位制がこれからのひとつの高校生の大きな教育の盾にもなるということ、それを理解していただくこと。

そしてまた、それが実施に当たっては、もっと地元と論議しながら時間をかけてとか、そういった面でのまとめがお願いできればいいなと。いずれにいたしましても、相当4回、5回という中での論議でございますので、経過を踏まえてのことをよろしくお願いしたいなと思います。

(中村委員長)

先ほど来の議論でいきますと、何か決まったような決まらないような、両論併記のような形、あるいは2校を併記してしまっ、委員会としての結論が出ない感じを受けていますので、やはり地域の意見はもちろん非常に大事ですし、実施していく上では協力をしていっていただくのですが、やはりここに配置をするということは、この推進委員会で判断をしたいと思いますので、今、中沢委員もおっしゃっておられるように、今までの議論を総合して判断をして決めていくのがいいのかなと思います。

次回、そういうことで決断したいと思います、いかがでしょうか。

(小山(壽)委員)

多部制・単位制の高校というのは、やりようによっては非常に魅力のある学校づくりができると私は思っています。なかなか当初から高校生の受け入れというような、夜間定時制のイメージをそのまま多部制・単位制に持ち込んでいってしまったというところがあるだろうと思うんですが、夜間定時制にしても不登校生は多いですが、必ずしもすべてがも

ちろん不登校生であるというわけではないわけで、そんな意味では多部制・単位制に対する理解は十分、一通り議論始まる当初においてできていなかったのかなという反省は持っております。

ただ、多部制・単位制については非常に以前から、この高校改革プラン以前から議論されてきているわけで、そういう中で当初のころ申し上げたと思いますが、多部制・単位制については生涯学習の拠点というような意味合いで、地域との連携が不可欠であるということがあります。

そのような中で、当然財政的な問題がありますので、既設校舎を転換するんだと、今、事務局で答えているわけですが、やはり太田フレックス高校を見ておりまして、やはり一定の施設、設備をつくって、そしてそのことによってやはり新しい学校づくりをしていく。やっぱり地域の方にも、その施設をより利用しやすいような形で、やっていけるようなことを考えてほしいと思うわけです。

今私は、A、Bという、どちらにということではないんですが、そんなことも含めて地域の方々の理解を得ていく必要があるのではないかと感じております。

また県の考え方はそれとして、推進委員会としてそういうような付帯条件というんですか、あるいはぜひこうあってほしいというようなことも添えて出してほしいと思っています。

（中村委員長）

また積み残しのようになってしまいますが、次回決めたいと思います。ただ今日は、もう議論が戻らないように申し添えておきたいのですが、多部制・単位制については配置していくということは、もう再確認された。それから、これはよろしいでしょうか。地域の理解を得てから決めるのではなくて、委員会としての意見を報告していく。

もちろん地域の意見も大切ですので、聞きながらいく、実施していきますが、よろしいでしょうか。それと、今校名が挙がっているところで優位性、どちらが多部制・単位制にふさわしいかというようなことで検討をしていく。もし、その優位性をさらに超える優位性があれば、別の高校も検討にはなると思うんですが、それはこれまで長く議論してきた上では挙がって来なかったと解釈してよろしいでしょうか。

はい、次回またよろしく願います。

それでは、いくつかまだ議論が途中である、再編整備候補案のところで議論を再開したいと思いますが、長野南高校と松代高校の統合に関しては、松代高校の校地校舎を使うという候補案でしたが、長野南高校の校地校舎を使うという方向も、案として挙がってきました。それについて、いくつか意見をいただいたのですが、引き続きこの点について、若干時間を置きましたので、またお考えもあろうかと思っておりますので、ご意見をちょうだいしたいと思います。

（市川委員）

一番最初に、まず私の個人的な気持ちといたしますが、この委員になったときに委員長からも言われましたように、委員の立場として第三者の立場で参画すべきだということで、私もそれを感じてやってきておりましたけど、やはり実はここで松代という問題が出ますと、

自分自身の立場からしますと、どうしても松代の立場にならざるを得ないところもある、この辺はご理解いただきたいと思うところでございます。

と言って、地域を代表してということではないということだけは申し上げます。前々回の委員会で、初めてこの松代という名前が挙がりまして、それ以来松代の高校の関係者の皆さん方、また同窓会あるいは松代は非常に地域との連携がありまして、地域の商工会議所ですとか商工会あるいはいろんな方々の対応が動きだしてきたと。

そういう中で、私は松代にいる関係上、いろんな情報をいただいております。そのお話を聞いている中で、私自身考えて単に交通の便、等々で結論を出すのは、私は非常に危険があるなと感じがしているのは、今の実情でございます。

と申しますのも、先ほども皆さん方も言われているように、地域の声というのを十分われわれ自身が理解しないで結論を出すというのは、非常に問題があるんじゃないかなという感じがしているのが、私の気持ちでございます。

例えば松代高校は、確か今年で 100 周年になるということで、今、特別教育棟とかというのを、1 億近くで建設がされるということで、3 月にもう着工するというところでございます。その募金活動も、私ども地域からも協力をさせていただいていますが、そういう募金活動もどんどん進んできている。

そうなったときに、例えば松代が長野南に統合になったときに、ではこの問題はどうかだろうというのが、非常に大きな地域としての問題が出てきているのが事実でございます。今までかかった費用はどうするのかとか、あるいは募金はどうするのだとか、確かにこれは一過性の問題かもしれませんが、そんなことも少しやっぱりわれわれとしても、十分考えていかなければいけないのかなと思っているのがひとつでございます。

それからもうひとつは、松代の 50 年にわたってのお祭りには、松代高校生が毎回 100 人近くの協力をさせていただいて、地域との連携で実施をされていると報告を受けていますし、私も実際に見ております。

そうすると、そういうようなものを地域との連携を、これからどうするのかというような、地域としての問題も、非常に大きくかかわってくるという、いろいろ考えますと、私は単に交通の便がどうだとか、人口の動向がどうだとかというだけで、例えば松代を長野南へ統合という発想は、私はちょっと反対をしたいというのが、今の意見でございます。前から申し上げているように、統合という問題は、ある程度視野に入れて、やはり検討すべきではないかなと思います。

この答申の中で、A 校 B 校という、これも結論を出すべきではないと。「べきでない」という表現はおかしいんですが、出すことは難しいのかなというような感じはしているのが、今の実情でございます。

(中村委員長)

新しい建物という課題もあるということですが。

(丸山委員)

この松代と長野南の統合問題については、私はこの前全体的に数の問題で平成 30 年まではそんなに大きく減らないし、大規模校が出てしまうということで、これは無理して統合する必要はないと。数を 5 つ、6 つにそろえる必要はないということを言ってきたつもりですが、それは変わりません。今も変わりません。同じ意見です。

しかも、さっきの話でいくと、多部制・単位制で 1 つ普通科全日制がなくなるわけですね。全日制の募集定員には繰り入れないわけですよ。別に考えるわけですから。もう長野南地区のところでは、長野南部から南の地区では、多部制・単位制の関係で 1 つ減る可能性が出てきているわけですね。

そういう点で、私が言ったような意見は、さらに強まっていくのかなと思います。それに松代の問題ですが、松代を長野南にということは、結論からいうと反対です。では、長野南を松代へというのも反対ですが、松代のことで考えますと、やっぱり松代も長野南も同じなんですけどね。この統廃合の場合、一番学区の点では困難というか、無理のある統合だと思いますね。

中野は、私は基本的には反対したい気持ちをずっと持ってきましたが、動きの中でも、全体の中でも中野、中実を統合して、いい総合学科をつくらうという動きが今、出ています。それは、ほんとに何百メートルしか離れてないんですよ。しかも同じ市内の中ですよ。

同じ市内というか、同じ町ですよ。そういう中で出た統合とは、全然意味が違う。つまり長野市といえば、長野市ですが。地域で見ると、長野南も松代も、特に地域高校的な、特に伝統からいっても松代はそういう傾向が強いわけです。そういう学校が地域からなくなるというのは、大きな意味がありますよ。

長野南がなくなると同じような意味がある。松代にもありますよ。だからこれは、あんな離れたところを統合するというのは、県教委側が数合わせをただけですよ。そこにわれわれが乗る必要はない。数が 1 つくらい減ったって、減らす数を少しぐらいそこに持っていかなくたって、ここはそんなに無理してやる必要はない。

しかも前から言っているように、総合学科をつくるとか、多部制・単位制をつくるとかとなっていますが、大義名分がないのです。確か県教委の案の中では、両方の取り組みを生かして新しい学校をつくると言っていますが、それはただくっつけただけで、例えばはっきり言いますが中野地区では、地域の現場でもある程度しょうがないなというか、やろうかという気持ちになったのは、総合学科という新しいものをつくっていくためにということで、さっきの話じゃないけど内発的な気持ちも出てきているということなんです。

そういう点では、ここは無理する必要はないし、松代の学校をなくすということの意味は、これは地域にとっても長野市にとっても非常に大きな問題だと。だから、私はこれは反対です。

(森野副委員長)

お願いします。今の丸山委員と同じようなご意見で申し上げたいと思います。

能率ですよ。能率とか効率とか、財政面で今まで語られてまいりましたが、それだけで学校を削減するということは、大いなる間違いではないかなと感じるわけであります。

先ほどもお話がありました。長野県らしい改革をというお話がありましたよね。やはり長野らしい統廃合を考えたいと思いますが、この松代ということは歴史的に見て非常におもしろい場所ですよ。江戸時代の真田十万石ですか。城下町として栄えましたし、武田、上杉、川中島合戦。それから佐久間象山、もう十分ありますよね。

それで戦後大本営というわけで、地下壕（ごう）というようなことで、やはり時代時代で、その移るところに松代の意気あるなど。それで今回の、この高校改革ですよ。やはりこれは県としても重要な位置を占めると、私は思います。ですから南を残し、また松代が残ると一番私とすればありがたい処置なんですけどね。

2校残ってもらえば、一番ありがたいですが、これからもお考えになるかと思いますが、非常に松代は歴史的にも文化遺産というような面からも、教育環境として非常に最適じゃないかな。ですから、松代は残すべきであると私は考えております。

（中村委員長）

ほかにご意見はございますでしょうか。

状況としては、統合は難しいというご意見がかなりあるかと思いますが。統合して、どういうメリットがあるか。あるいは課題があるのかという観点で、逆の立場の方はいらっしゃいますでしょうか。統合したほうがというご意見は。

（小山（元）委員）

それぞれのご意見があるかと思いますが、確かに松代は歴史もあるし、真田十万石の有名な「エコールドまつしろ」で、現在ほんとに松代高校の人たちも地域に協力してやっております。

それで長野南高と松代高のことしの在校生の数から、いろいろ見させてもらっているわけですが、自転車通学はそれぞれあるわけで、交通機関の関係もやや数からいえば南高がありますが。

旧第4区からの、両方への、それぞれの学校へどのくらい入っているかということ、松代高が確か88.6パーセントですか、549名で。長野南高は、534名の76.4パーセント。在校生の数が、長野南高が699名、松代高が614名という数の中で見ているわけですが、その4区からの中身を篠ノ井、川中島、更北地区で見た場合に、長野南高が53.4パーセント。それから松代が52.1パーセント。ちょっと変わってないということですね。

ただ更埴、坂城から見ていきますと、やはり松代は電車通学の関係がありますから、これは36.5パーセントで、長野南が23パーセントですか。ということになります。やはりこれだけで考えるというのも、じゃあ3区からどうかということ、長野南高のほうが138名の19、約20パーセント、19.7ですから20パーセント。それに対して、松代高のほうは3区からは60名の約10パーセント、半分ですね。

そういうような状況から見ていった場合、それぞれお話が出ておりますように、できるならば両校はそのまま残したいという気持ちがあります。しかし、私たちの立場で考えていった場合に、これは統合せざるを得ないなと考えていった場合、それぞれのご意見をお聞きしておりますが、それぞれの地域、更北、川中島地区と松代の今後の人口の動向棟を考えていった場合には、やはり更北、川中島地区のほうが人口的には増加の傾向が強い。

現在長野南高の東側に、大きい道路が1本設置されております。そういういろいろな状況から、地域的な発展の様子、松代は歴史の町で、全国でいっても有名ですが、そういうことを踏まえながらも、やはり今後、これからのことを見通した場合に、私はもし統合するならば、やはり長野南高の広い校地へ統合するほうが、今後の発展的な立場から、高校生の学ぶ環境としてはいいんじゃないか。前回出された、塚田委員の意見に賛成ということです。

しかしこの2つが松代、更北、川中島地区となりますと、両方とも綱引きのような状態になってしまいますと、やはり担っていく高校生たちが、ほんとに学ぶ環境がいいことところで、高校生活を送れるかということになると、綱引きの状態にはなってはいけないなということを感じるわけです。そういう点で、あらゆるところがやっぱり検討していきたいなという気はします。

(中村委員長)

ほかにご意見ございますでしょうか。

両校を残していくというご意見がいくつかあるのと、それから松代よりは長野南へ校地校舎の利用をしたいというご意見があるかと思うんですが。統合しなかった場合、この影響はどうお考えになりますでしょうか。

丸山委員からは、統合しなくても学級数の維持をしていくということでご提案されています。

(小山(壽)委員)

統合しなかった場合、どういうふうな状況が出てくるかとののは、なかなか推定はできないわけです。だから逆に統合した後の状況もどうなるかということも、なかなかこれは可能性だとかあるいは、率の問題、数字の問題がありまして、なかなか簡単にこうであろう、ああであろうと推測することは可能ですが、現実になんてなるということは、なかなかわからない状況があるだろうと思うんです。

ただ、この高校改革プランのやはり前提条件の中にあっただのは、魅力ある高校づくりということは大前提ではありますが、さらに背景として少子化が進んでいくということ。それから財政状況が芳しくないというような状況が全体としてはあるだろう。そういうような中でいえば、やはりできるだけ高校生にいい条件で、高等学校教育を受けさせるというような観点からいえば、やはり効率的にお金を投下していくことは必要であろうと思います。

そんな意味でいえば、やはり統合は仕方がないのかと。統合することによって、新しい学校により大きなお金を投資していく。それでしかるべき条件で高校生に高校教育を受けていただくという方向で、やっぱり考えていく必要があるのではないかなと思います。

(森野副委員長)

ただいまのお話を受けて、覆すようなことを言うのですが、松代高校の生徒が減っていくとしても2学級は維持できるんじゃないかなと私は思います。

だから一番下限のところ。先ほど私は地域性というようなことを言いましたが、生か

していただきたいなど。それこそ少人数を、クラスができることによって多様な子どもたちを教育できるのではないかな。それをかえって、魅力のある高校づくりに発展してはいかないのかな、そんなふうに思うわけです。

ですから、つえになるものがあってしかるべきだと今考えているわけです。

（塚田委員）

私も、やはり統合ということを視野に入れて考えるべきだと思います。今、森野委員さんからお話があったようなことですが、やはり同じ市内に小さくてもいろいろ歴史があるし、地域との連携うんぬんということで、残すべきだというご意見があるのはよくわかりますが、やはりこれは教育をお金で語るなというご意見もあることは承知の上で言わせていただくわけですが、やはりスケールメリットというのも、これは追求をすべきだと思います。

教育にお金をかけることは必要ですが、やはり効率的に使っていくということも必要であろうと。特にこの市内の場合は、そういった統合ということが、交通の便から考えても、十分可能な地域ですので、そういうことを考えた上では、やはり南と松代の統合というのは、やはり前提で考えていくべきではないかと思います。

やはり人口の動向を見ると、校地校舎ということでは、南なのかなという感じがいたします。

（丸山委員）

もう一点、簡単な説明しますが、少子化、それから人口の動向と言われると、言葉で言えばそのままですけど、私が言っているのは県教委が試算をした、この推進委員会に基本的に出した、検討事項として出した表の学級数試算で言っているんですよ。

県教委が出した学級数試算、40人学級の学級数試算を見ていくと、第3区、第4区、それから2区も絡みますが、以前から何度も言ってますよ。第3区は、第3区の中条がどうなるかという問題もありますけれども、それを入れても例えば皐月は総合学科で4学級ということをやちゃんと出しているわけですよ。

それから職業科も、必ずしも5.5とか6という基準じゃなくて、4学級とかそれぐらいのほうがいいというので、ずっと4というところがあるわけですよ。それから5とかね。それから地域高校で、それを存続するためには、地域高校をあまり大きくしていくと、それはまた逆流が起こるんであって、やっぱり地域高校でも2でも残していくということも含めて、つまり5.5とか6という平均で考えると、考える必要はないですよ、高校というのは。現実にと考えると。さっき小山先生がおっしゃいましたが、確かに一定の規模がなければダメだし、ということはあるんですけど、細かく見ていくと第3学区は中条以外のところは、あまり統廃合はないんですけど、8学級、7学級というところが平成30年まではいくつも出てくるんですよ。

ところが県は何を言っているかというと、長野の南地区を減らすのに対して、長野南と松代を統合するに対して、何で説明しているかというと、北部に行く生徒が多いので、北部の高校の学級数を維持して、と言っているんですよ。維持して、こちらを減らしますと言っているんですよ。

維持してというけど、増やさなきゃだめ。そうするとさらに 8 学級、7 学級を増やさなければダメになるんですよ。8 学級、7 学級というのがいっぱいあっていいですか。それは大き過ぎます。

それからそのことでいくと 4 区だけ考えるともう少し小さくなりますが、ここもさっきの多部制・単位制で 1 つなくなるわけですね。そのように考えていくと、ここも 6 とか 5.5 に収まるんですよ。その収まるということはつまり、いくつかのところは 4 とか 5 学級として、つまりまず前から言っているように、残念ながら今学校格差があり、中野高校も正直そうですけど、困難な子たちが来るわけです。大変な、いろんな問題を抱えた、家庭的にも、経済的にも、学力的にも、生活上も。そういう子のいる学校は、6 とか 5 では多いんですよ。はっきりした、現場の感覚でいうと。

だから、そういうところは 4 とか 5 とかにしていくと、十分平成 30 年ぐらいまではもつんですよ。減らす必要はない。むしろ減らせば、7 学級、8 学級というところが出ると言っているんです。だから無理して、そういう中で無理して総合学科とか多部制・単位制とかという、何というか大義名分のない、しかもこんな離れたところと一緒にするというのは、ただ少子化や人口減の問題といった、一般的な話ではなく、県が出した推定学級をよく当てはめていくと、今急いで減らす必要はないと。

もちろんそれは、31 年、その先はわかりません。しかしこれから十数年大丈夫なんですよ。ただ、それを何でそこを無理して、さっきの話じゃないけど、地域でもいろいろ、学校でもいろいろ、不安や反対が多いところを、どうしてそうやってくっつける必要があるのかと。

そりゃどうしてもわれわれ委員の中で、6 校減らさなければというのがあるからですよ。6 校減らさなければというのは、確かに前提かもしれませんが、しかしそれは地域をいろいろ検討した結果、まだこれは無理だとか、これは困難だって言ったら、それはそこまでの数を合わせなくてもいいじゃないですか。

それは、減らさなかったら困っちゃうという状況じゃないということを、私は説明しているわけです。そういう点では、この長野南と松代の問題というのは、初めから私は思っていますけど、変な言い方で悪いですが県教委の案の中では、一番説明ができないところです。

(中村委員長)

2 校の統合は必要ない。さらには学級数も少なめの維持をしていけば、大丈夫だということですが、そこにはやはり学校の魅力づくりが絡んでいて、志願者数という問題も出てくるとかと思うんですが。

全県の校数の基準ですね。それに基づいては、やはり 2 つを統合するというのは第 1 通学区には 1 カ所、2 カ所と必要なんですが、全県の基準から考えたご意見は何かありますでしょうか。例えば地区を変えるというのがひとつ案としてはあるだろうと思うんですが。

今 2 校は、非常に難しいということです。離れすぎている、あるいは両方とも特色がある、あるいは人口増加地域にあるという理由が挙がっていますが。いつもここまで議論が停滞してしまうので進みにくいのは確かですが。

推進委員会が任された議論というか検討事項としては、やはり統合して削減していく方向なんですけど、長野南と松代をこのまま残すと考えた場合には、ほかに代わるところを検討することも必要かなと思います。

それは例えば候補案に対して、報告事項としてご意見申し上げるときに、ただ反対ではいけないと思いますので、6校削減の代替案を、方向性だけでも示す必要があろうかなというのが、ひとつ私は思うところです。

かといって、ほかに校名を挙げるということではないんですが、この時期になりますと校名を挙げること自体が、中学生の影響が大きいというお話もあります。もちろん、高校生に対しても影響が大きいんですが。

以前少し申し上げたんですが、例えば須坂地区が今は何も再編整備という形では、提案がなされていません。これは、第2通学区で中野の地域で総合学科高校の導入ということで2区に関してはそういうことで、中野市にお願いしたということだと思います。

現実には、須坂地区でも人口は減るわけですね。非常に高校は近接していますから、連携をして、あるいは統合をしてということやりやすいのかなと思います。ただ、推進委員会でそういう議論は全然、地区名は挙がりましたが具体的には検討されていません。

私が以前申し上げたのは、将来的には地区の理解を得ながらやっていくには、須坂地区でぜひそういう検討する会議をこれからでもよろしいんですけど、立ち上げていただいて、より魅力ある再編整備に向けた案を出していただきたい。そういう会をぜひお願いしたいなと思っています。

これは松代と南の統合と別に、これは別としてやっていただきたいなと思います。議論が進まないときには、次の議論に行くということもあるかと思いますが、これは堂々巡りになりますね。次回に回すと、また忘れたところから繰り返になってしまうので。どうしましょうか。

(小山(壽)委員)

子どもの人数の推移という問題と、もうひとつは流入の状況、2つあるわけですが、かつての12通学区制から4通学区制になりまして、生徒の流入の状況というのは、地域によってかなり大きな変化をしてきている。

ただ、2年間しかまだやっていませんので、今後もどのように動いていくのかというのが2年分のものからしか推計できません。これがさらに3年、4年、5年と積み重ねていく中で、よりはっきりした形が出てくるだろうと思うわけです。

やはり長野への志向というのは、市街地の高校への志向というのは、非常に強いものがある。逆に、いわゆる市街地の地域の子もたちが、またそこからはじき出されて旧第2通学区、あるいは第4通学区へ出てくるというような状況もありますが、これは学区制と変えてしまったということでありまして、もうこれは前提としてそういうふうなことが行われているわけですから、そういうような動き、それから少子化の動き、そんなものを見ながら、やはりこの地区については丸山先生のおっしゃるようなことも、十分根拠のあることのように思える。

そういう意味でいうと、やはり将来的には統合すべきであると、私は思います。ただ、そんな学区間の受け入れの状況、あるいは少子化の進展状況というのを見ながら、19年度

ということではなくて、統合を前提にしながら実施年次をもう少し繰り延べるというよう
な。

それもただ、状況を見てそのうちにいうのではなくて、やはり何年ごろには統合する
よというものを出さないと、今度中学生に「いつなるんだ」「いつなるんだ」という不安を
与えますので、実施計画の中でこの時期にというようなものを示しながら、直ちにいう
ことなく、統合をしていくという方向があるのではないかと考えています。

（若麻績委員）

私も、この南高、松代高校の統合、新設についてが、今回のこの第1通学区の中での再
編整備の魅力ある学校という中で、一番見えにくいところだなと感じております。見えに
くいということは、やはり地元の方やこの学区に関係する子どもたちや教育関係者のみならず、
地域の方々の理解を得られないということになりますので、やはりそれは非常に問題が
根深くなるというような気がいたします。

その中でも、総数決定基準というのが示されて、やはりこの27校から21校と、第1通
学区で決められて、提案されて県教委さんのほうから来ているわけですから、しかしそれ
を進めないというわけにはいかない。

その中でやはり、今の小山先生のお話と重複しますが、やはり目に見えるような形の中
で、もちろんその学校の存在そのものを将来どんな魅力にしていけるのかという議論の中で、
時間の幅を少し持たせるということを用いながら、先ほど委員長さんからのご提案の中
でなるほどと思っている部分は、長野市の通学区の部分と、それから須坂市を含めたエリア
の中での考え方を、ひとつの方向性として示すというのは、この委員会の中でも可能な
のではないだろうかという思いはしています。

同時に、今出ている2校の関係の中でも、やはり多部制・単位制を設置するということ
も同じテーマの中にありますので、それと学校設置との影響を考えての配慮ということも、
十分に考えなければならない。非常に難しいところに直面すると思いますので、委員会の
判断、ひとつに方向性を示すということは、私が先ほど申し上げた方向とっております。

（中村委員長）

ありがとうございました。

まとめていただいたようなご意見だったと思いますが、何か特にご異論というか、主張
がございでしょうか。

どういう方向かといいますと、どこの学校とは言いませんが、統合するのはもうやむを
得ない。長野市近辺で、少し校数を減らして教育の充実に努めるという方向は、将来的に
も必要だ。ただ現状では、候補案として挙がっている松代、それから長野南高の統合とい
うのは、非常に大きな影響があるであろうと。

それから2校を維持したままでも、丸山委員のご提案ではしばらくの間は大丈夫。です
ので、少し検討期間を置きながら、統合を前提に進めるという方向です。

(丸山委員)

どのようにまとめの方向をするかということにかかわると思いますが、私はこう考えています。さっき言ったことでいうと、地域によって少し違いますが、これは全県的な総数でもそうですけど、平成 31 年はやっぱりかなり減るんですよ。はっきりいうと、平成 31 年は、私も個人的な計算をしてみると、第 2 期の今のような統廃合が必要になって来るといふ時期だと思います。

だから 30 年までは、私はこの地域は、2 区、3 区、4 区の地域は、確かに部分的に 4 学級とか、5 学級は出てくるけれど、6 学級規模以上のところは維持できる。だから今の話は、こういうふうなことだったら、私も賛成というかいいかなと思うのは、将来的に平成 31 年まで見通した段階での第 2 次の統廃合というようなことも含めて考えると、4 区と 3 区と 2 区のところで、2 区の須坂ですね、それは。そのところでさらに統廃合なりが必要になってくる。そういうことを、これから地域で検討すべきであるという提案を、一般的な提案を委員会ですておくと。

そうじゃないと、前から言っていますが、何で長野南と松代なのかというのが、私は全然わかりません。はっきり言いますが、長野市北部の統合というのはあり得ないのか。須坂の統合はあり得ないのかという話になるわけですね。

何で長野南と松代なのかと。だから今、一般的な話で、2 区の須坂と 3 区、4 区を合わせてみると、将来的に、将来的にというのは私は平成 31 年以降だと思います。そこでは統廃合は必要である、そうなってくる可能性がある。だからそれは、地域でまた今後検討すべきであるということを提案する、ということにとどめておくと。

ただ現実の、今の統廃合の問題でいえば、長野南と松代の統合は無理だと。それからもうひとつ言っておきますが、須坂については意見が出ており、対案も出ていますが、これは 2 区で中野地区を統合して総合学科にしたことによって、2 区は非常にきつくなります。私が心配しているのは、前から言っていますが、中野地区の子たちの中で、新しい統合高校に行けない子が出てきます。

そうすると、飯山からも来ますね。そうすると、須坂へ行かざるを得ません。それを飛び越して長野まで行かなきゃ。長野だって入るところがないんですよ。つまり、一番私が中野と中実の統合で心配しているのはそこなんです。中野地区の子どもたちの中で、特にその困難を抱えるような子たちが行き場をなくす。総合学科に行けるじゃないかというけど、そう簡単ではない。

そういう意味でいくと、須坂へ持って行って、今、統廃合するということも、私は反対です。そういう意味でいったら、全体的に長野南部と長野北部、つまり 4 と 3、それから 2 区の須坂、全体として将来的な統廃合の問題が出てくるので、これは地域で十分検討してほしいという、そういう提案をこの委員会でするということは賛成です。

(中村委員長)

ほぼ、方向性はよろしいかと思いますが、何かご意見はありますでしょうか。

これはどうしたらいいんでしょうか。松代と長野南の統合は見送るという、そういう意見でよろしいでしょうか。

(小山 (壽) 委員)

違うと思いますね。長野南と松代を統合するということで、進めてもらいたいと思います。ただ、統合についてはもう少し資料がほしい。いずれ生徒の流れというのは、はっきりしてくるだろうと思うのです。

何年ごろという計画年次については、いずれやはり示すべきだと思います。この推進委員会でということではなくてですが。こっちかもしれない、須坂かもしれないというようなことではなくて、私は前々から申し上げているように、第2弾の統合というのは20年代の半ばに、また来るであろうと思っています。

これは少子化ということと同時に、生徒の学区間移動がより加速すると思っておりますので、その時点においてそういう状況が恐らく来るだろうと思っているわけです。

その中で今回、検討されたかったものについて検討すればいい。地域の方にご検討いただくということは大事ですけども、地域の方に統合について縛りのない中で話し合っていただくというのは、これは現実的ではないと思っております。

(塚田委員)

私も、この統合については、この前提として検討していくということで方向でしていただきたいと思います。

ただ今おっしゃるように、今度の、「すぐ」ということが難しい、それからその根拠となる数字的なこともちょっと今すぐということではないということならば、今、小山先生からあったように、時間を区切って考えるべきだと思います。

ただ丸山先生から言われたように、平成31年だと、あまりにも向こうすぎるので、もうちょっとやはり短いスパンで考えるべきじゃないかと思います。特に人口動向では、人口の減少というのは専門家が予定してより2年早まったと言われていていますよね。今の少子化の問題では、1.29人というような推定率というようなことで、多分31年よりもっと早くそういうことが起こってくるかと思えますし、ですから十何年後ということではなくて、例えば3年とか、どんなに長くても5年とか、そのくらいのスパンで考えていかなければいけないんじゃないかとは思っています。

(中村委員長)

ほかにご意見ありますでしょうか。

(清水委員)

ただいまの小山先生のご意見に、全く賛成ですが、この段階においてはやはり、長野南と松代の関係については、やはりそれを基準に今後考えていくという形がいいと思っております。

それともうひとつ、賛成だという話なんですけど、それはたまたまここで須坂地区のことでも出てまいりました。きょう出たのが初めてというわけではありませんが、実際のところ昨年の11月の7日でしたが、市内4校のPTA会長と役員が集まる会がございまして、この高校改革プランについての意見を皆さんからも出していただいた経緯があったわけでございます。

特に今日まであまり須坂地区というものがクローズアップされて話題にはならなかったもので、特に発言はしませんでした。やはり小山先生がおっしゃるように、実際この段階で先々のことを考えながら、その統廃合を視野に入れて議論をするというのは、あまりにも現実的ではないなということは、その時もしました。

これは、この推進委員会が始まって、その校名が挙がった高校が当初そうであったように、また名前が挙がらなかった高校もそうであったように、やはり実際に具体的な名前が挙がらない限りは、そんなことはほんとに他人事みたいな形の状況であったと記憶しております。

しかしながら、やはり須坂4校というのは、あえてこの委員会でお話しする内容でないかもしれませんが、非常に団結感というか、一種独特の世界というか、そういったものがございまして、連携が強固であります。

かなり前からなんだろうが、この須坂4校の会合も年に数回持ったり、情報交換する、PTA活動の状況や報告など、そういったものもやっていくのが現状で、先ほども丸山先生からちょっとございましたが、やはり中野地区、飯山地区から須坂の4校に通ってこられる子どもさん方も、かなり多く受け入れているというようなことから、とても須坂市内4校が、どこかと統廃合するなんてことは考えられませんねというような話になったということだけ、ちょっとお伝えしたいなと思ひまして発言させていただきました。

(中村委員長)

私が、以前から須坂地区でぜひ検討していただきたいと言っているのは、やはり魅力づくりを今のままでいいのかどうかの判断も含めてですね。それをやはり検討しないと、もしいずれそういう統廃合の話があったときに、急いでやるというのはとても間に合いませんし、地域の理解が得られないとなかなか進めることは難しいということであれば、また先送りになってしまうわけですね。

ですから検討がなされていないところは、長野市の中心部にもいくつかの高校があってそこもそうかもしれませんが、須坂地区というのがこの委員会でも名前が出てきたところですので、お願いしたいと考えて発言したのですが。

(市川委員)

この松代と南というのは、皆さんもご理解いただいているように、非常に難しいというのは現実だと思っています。そういう中でこの2校だけで、どちらを統合しろというのは、確かに原理原則といいますか、理論的にはわかりますが、ここでそういうことを提案するというのは、非常に地域に対して問題があるんじゃないかなと感じておりまして、さっき委員長がご発言なさったように、この2校の統合に合わせて、広域的な視野も入れて検討すべきだということに含めていただければ、この答申としてはいいんじゃないかなと思います。

この中でも存続をすべきである、あるいは南を統合すべきである、松代を統合すべきであるというのは、意見、完全に分かれていると思うんですね。そういう中で、一方向だけに結論を出すというのは、非常に危険があると思っています。そういう意味で、非常にベールに包まれたような意見かもしれませんが、それほど難しいということも、やっぱりこ

の委員会で発言すべきじゃないかなと私は提案するのです。

（中村委員長）

また文章になったところで、見ていただくということによろしいでしょうか。ほぼ意見は出て、きちんと決めるということには、どうもなりそうもないということですので、いろいろな付帯事項が付くまとめ方になるかと思いますが、何か特にご意見ございますでしょうか。

まとめ方の点で、何回かお話が出ていますので、骨子案を示すといいながら、だいが先送りになってきてしまったのは、まだ議論が途中なので早々とそのまとめにかかるというのは、皆さんの議論を阻害することになるのかなと思いつつ送ってしまいました。

きょうは私のほうで、骨子案の資料を事務局にコピーしていただいていると思うのですが、皆さんにお配りして、もうこれ以上は推進委員会は先延ばしにせずに、今までじゅうぶん議論してきたことを、きちんとまとめていこうと思いますので、あと何回やるかというのは、またご議論いただきたいと思います。

報告書の骨子ですね。これが、「なんだ、こんな項目か」と感じたのかもしれませんが、お手元にいただきましたでしょうか。詳しい内容に関しては、一切書いておりません。項目だけです。

1 番目の推進委員会の開催状況は、長野県教育委員会のホームページから、日時がきちんと書かれていましたので、それをそのまま抜き取って書いたことであって、ここはよろしいかと思いますが、16 回までになっています。あと 17 回はやるとして、18 回になるのか、その辺はきょうまたこの後で決めていただきたいのですが。

2 番目ですが、教育委員会からこの推進委員会に依頼された検討事項が、 の下のところにあります。2.1、2.2、2.3、2.4、魅力ある高等学校づくりに関する事項。それから総数決定基準に基づく再編整備に関する事項、総合学科高校および多部制・単位制の配置に関する事項、それでその他となっております。これにはやはり、きちんと答申といいますか、報告をしないといけないので、その中身を のような項目で議事録から抜き出してまとめていきたいと思います。

この の部分は、以前に 1 回から 5 回までに出示された意見ということで、私のほうから皆さんへ資料として提示した、その項目です。若干違っていますが、その後でまた増えた項目等もありますので、それを含めてあります。それから、今議事録を一生懸命再度読んで、まとめていますので、また項目が増えたりするかもしれませんが、皆さん方からいただいた意見を、ある程度まとまりのある部分でくくって、賛成、反対というようなそういうものも分けて、こういった項目で議論いただいたことをまとめたいと思います。

ただこれは、かなり多量な文章量になりますので、そのまま載せるかどうかはちょっとまたご議論いただきたいと思います。ここで答えたいのは 2.1、2.2、2.3、2.4 の内容をきちんと議論の内容から抽出して記述するということです。

3 番目は、県の教育委員会から示された再編整備候補案について、委員会として議論いたしましたので、これについて 1 つずつ推進委員会の方向性をまとめるというところです。飯山地区、中野市、須坂市を中心とした地区の、3.1、3.2 に関してはこれまでに、ほぼ方向性が示されたところです。

それから 3.3 の総合学科高校の候補というのも、中野地区ということで方向性が示されています。それと 3.4、3.5、3.6 に関しては、若干議論がまだ進んでいるところがあるので、推進委員会の最後までこれは記入するのが難しいかなとは思いますが、まとめり次第記述していくということです。

4 番は、全体的なことですね。再編整備に関する要望なんかをまとめたらよろしいんじゃないかなということで、実施計画策定に向けて議会からも要望がありますでしょうし、われわれ自身も検討の中で、いろいろ思うところもあるでしょうから、そういった要望をいったんは議事録の中から抜き出しますので、その後またご議論いただきたいと思います。

まとめの時期がどの辺になるかですが、早急に 2 番の のところを私がまとめまして、皆さんのお手元に推進委員会の前に、次回の前になるかどうか、それまでにお配りをして検討していただいて、あるいはこの報告書の内容もいくつか記入したものをあらかじめ見ていただいた上で、推進委員会でまたご議論いただきたいと思います。

それと並行して、議論の済んでいないところを進めていくというふうにやっていきたいと思いますが、今日挙げたのは、ごく当たり前の項目だと思いますが、ほかに何か報告書としての内容として記述しておくべきということがありましたら、お願いします。

あまり議論が済んでいないうちに、「まとめ、まとめ」と申し上げるのもいけないかなと思ひまして、この時期になりました。

（清水委員）

地域からの意見というのがあったと思いますが、それはどちらへ盛り込まれるのでしょうか。

（中村委員長）

これは、推進委員会の中で議論をしていますので、その議論に反映されているものとしたほうがよろしいんじゃないかなと思ったんですが、地域からの意見をまとめたほうがよろしいでしょうか。

これは難しいところですが、われわれの議論に生かすためにお聞きしたんであって、地域からの意見を求めることは、推進委員会の役割としては、あらかじめ規定はなかったわけですが。

抜粋の仕方がかなり難しいんじゃないでしょうか。そうすると、議論した内容ということになるとと思いますが、皆さんどうお考えになりますでしょうか。

（塚田委員）

例えば、この間皆さんからお聞きした後出てきた議論もありますよね。11 月でしたか。地域の意見をお伺いした後出てきた。例えば今回の松代のことなんかもそうですし、そうすることで全部載せきれない部分も出てくると思うので、今、一応やったとおりわれわれの議論の中でその地域の意見が、反映された意見が出てきたということで、やはり逆にいうと、全部載せきれないということで、公平、不公平感が出てくると思いますので。

それと、もうひとつやっぱり、われわれ委員会としての答申をするわけですので、委員

会の意見として出せばいいと私は思います。

（中村委員長）

はい、わかりました。

（丸山委員）

それはそれでいいと思います。ただ委員会、ここで意見を聞いた分と、委員長あてとどうか、委員会あてにきた要請とか意見については、項目だけというのがあったか資料で入れておく必要があるんじゃないですか。中身まではいいですけどね。つまり記録としてその報告の中では、教育委員会に出さないで、こっちへ出したというのもあるわけですよね。その出したものについては、資料は保存してあるわけだから、委員会にはこういう要望が出ましたよというのを、一応一覧表で資料として載せておく必要があるんじゃないですか。

例えば、変な話ですが、この報告の中には委員は誰々というのは入るわけですよね、最後には、資料として。要するに、資料としてここに載るところは必要ないんですか。

（中村委員長）

そうですね。ちょっと今、不安に思ったのは、私個人あてのものと、委員長あてに郵送されてきていますが、自宅へ送られたり職場へ送られたりしてきています。それが皆さん方に配布されているのとそうでないものもあるし、取り扱いが難しいかなと。推進委員会に対して出したもの、それから推進委員長あてに出したもの、全部リストアップしろと言われればそういうことであると思いますが。

どうしたらよろしいでしょうかね。例えば毎月発行されているようなものも送られてきていますし、そういうものもすべてということでしょうか。

推進委員会の資料として提出したものに関しては、リストアップできるとは思いますが、それでよろしいですか。

（中沢委員）

ちょっとよろしいですか。

まとめるのに、なかなか難しいなと思います。しかし推進委員とか、あるいは推進委員会、あるいは教育委員会。そしてまた要望書、いろいろあるわけですが、そういったものは整理しておくことは大事だなと。ただわれわれは、そういうものを踏まえながら、その上に立って意見を申し上げてまとめさせていただいているということだから、そのものの報告、そのものについては、ごくこの場で論じられたことを、実際にやるべきじゃないかなと思います。

そしてまた今のような資料は、事務局的にこういうものもあったということで、必要なときにはいつでもそこにありますよという、所在さえはっきりしておけばいいんじゃないかと。そうでないと、かえって混乱を招くことになるか、ものをまとめるにはそういうことが大事じゃないかなと思います。

(中村委員長)

そうですね。この推進委員会に提出していただいたというか、皆さんに配布していただいたリストについては、事務局で把握できると思うんですね。それから、ご準備いただいた資料に関してですが、そういうものは事務的にまとめていただくという扱いでよろしいですかね。その内容は当然、推進委員会の議論の中でご意見として承っているということです。

ほかに何かご意見ございますでしょうか。

時間がきておりますが、次回は行うということですが、議論をしていただくのは多部制・単位制の配置について、まだ残っております。それからまだほかにも、途中でストップしているところがあるとお考えであれば、それを出していただくということで進めたいと思いますが。

これは日程との絡みもありますので、今後の進め方で特にご意見があれば、今、ご発言いただきたいのですが。あと1回は行う。その先に関してはいかがでしょうか。あと1回は行う、1回だけということであれば最終回ということになります。それまでに、報告書が間に合うかどうかという問題もあります。

できればちょっと間を、議論いただいた間を空けて、1回開催していただけるとありがたい。最終的な議論も含めたいと思います。ひとまずそれでは、次回を事務局でご説明いただいて、その後またご意見を伺います。

事務局、お願いします。

(三澤教育支援主事)

次回の日程ですが、前々回のところで1月に入りまして、もう1回を1月14日または15日でいかがかということで、お話しさせていただいたのですが、委員さん方のご都合をいろいろ考えまして、14日の午前ではいかがかと考えております。

あらためてまた調整を図りながら、ご案内を申し上げますので、よろしくお願いいたします。

(中村委員長)

14日の午前は行うということで。多部制・単位制が残っていますし、あと全体を通して、またまとめということであれば、また時間がかかります。報告書の議論もしていただくということであれば、14日の次も視野に入れておいたほうがいいかなとは思いますが。どうでしょうか。そういう方向で。

最終回は報告書だけの審議になろうかと思います。それであらかじめ報告書は見ていただくということをお願いしたいと思います。

はい、ではきょうはそのあたりまでお決めいただいたということで。

若干時間が過ぎてしまいましたが、これで第16回の推進委員会を閉じさせていただきます。大変お疲れさまでした。